

平成30年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 総括号

平成30年12月28日発行

宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html>

【平成30年産水稻の作柄】

宮城県東部 収穫量 527kg/10a (前年差 15kg) ※1.85mmベース
 作況指数 101 (平年並) (東北農政局, 平成30年12月10日公表)
 宮城県 1等米比率: 92.1% (11月末現在)

1 気象経過

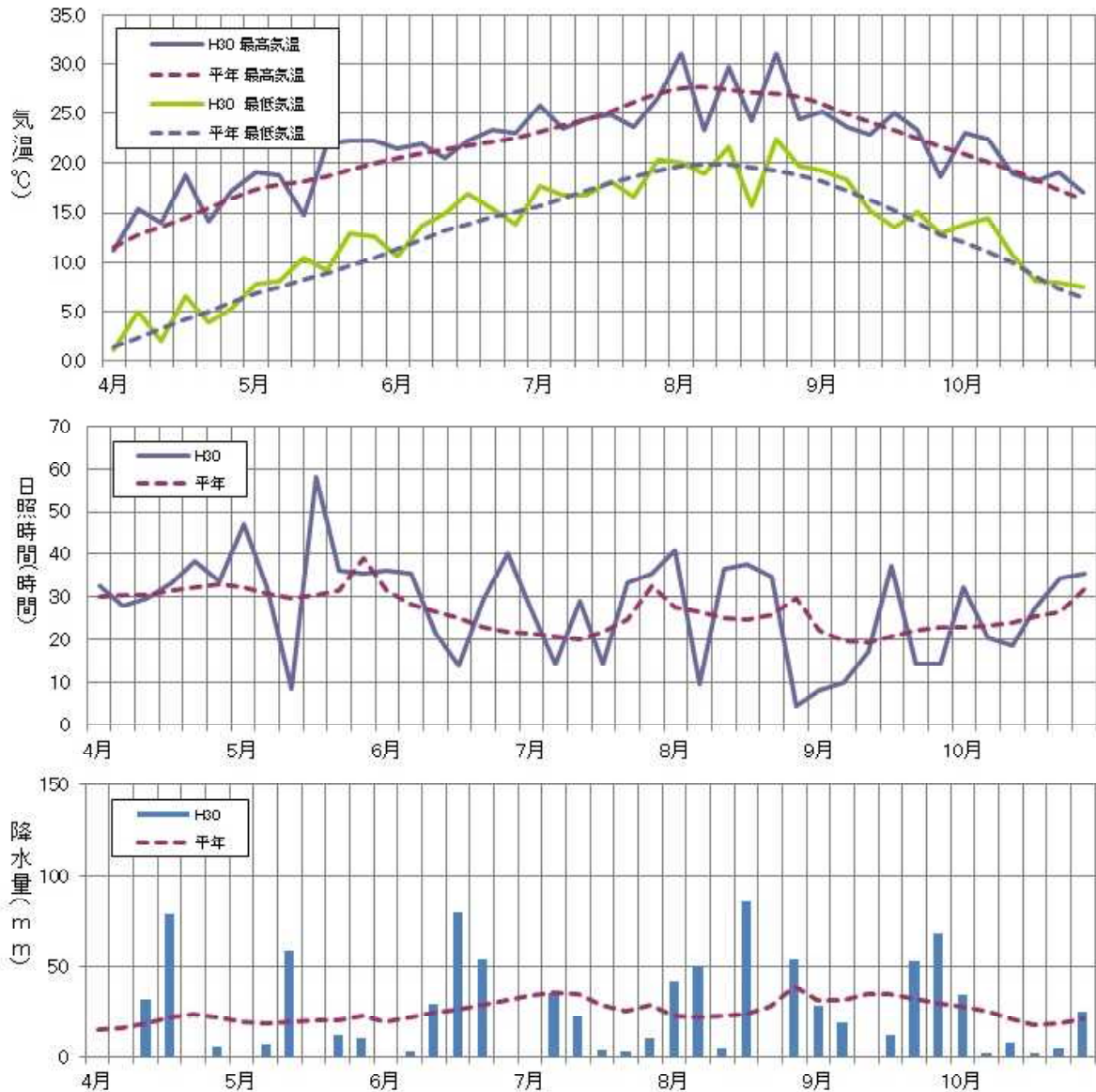


図1 平成30年稲作期間の気象経過図 (気仙沼アメダス)

表1 稲作期間の気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H30	平年	差	H30	平年	差	H30	平年	差	H30	平年	比	H30	平年	比
4月	10.6	8.7	1.8	16.1	14.1	2.0	5.4	3.7	1.7	171	187	91%	91	119	76%
5月	14.5	13.4	1.2	20.0	18.6	1.3	9.7	8.6	1.0	171	193	89%	170	122	140%
6月	18.1	17.1	1.0	22.6	21.5	1.1	14.1	13.4	0.7	167	156	107%	53	153	34%
7月	23.1	20.8	2.3	27.0	25.0	2.1	19.9	17.6	2.3	130	141	92%	48	189	25%
8月	23.0	22.8	0.2	27.2	27.2	0.1	19.7	19.5	0.2	163	159	103%	238	159	150%
9月	19.1	19.3	-0.2	23.1	23.7	-0.6	15.7	15.6	0.1	100	127	79%	181	195	93%
10月	14.6	13.6	1.0	19.7	18.7	1.0	10.3	9.1	1.2	168	154	109%	76	133	57%

2 生育経過

(1) 播種期～田植期

播種盛期は、平年より1日遅い4月15日でした。田植盛期は、平年より1日早い5月15日でした。

表2 管内の播種および田植状況

	播種状況			田植状況		
	播種始期	播種盛期	播種終期	田植始期	田植盛期	田植終期
平成30年	4月7日	4月15日	4月22日	5月10日	5月15日	5月23日
前年	4月4日	4月14日	4月22日	5月11日	5月17日	5月24日
平年	4月6日	4月14日	4月21日	5月10日	5月16日	5月24日
前年差(日)	+3	+1	0	-1	-2	-1
平年差(日)	+1	+1	+1	0	-1	-1

注1) 始期、盛期、終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日

注2) 平年値は平成25年から平成29年までの5か年の平均値

(2) 分けつ期～穂ばらみ期

田植後は高温傾向で初期生育は概ね良好でした。6月中旬の低温、日照不足により茎数の増加は緩慢となりました。生育量は平年をやや下回りました(図2)。葉色については、生育が平年より遅れたことから、葉色のピークも遅れて推移しました(図3)。

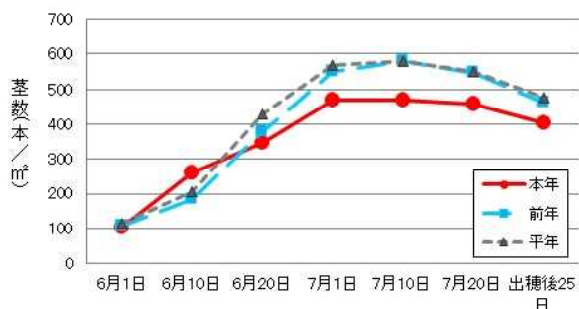


図2 茎数の推移(気仙沼市 ひとめぼれ)

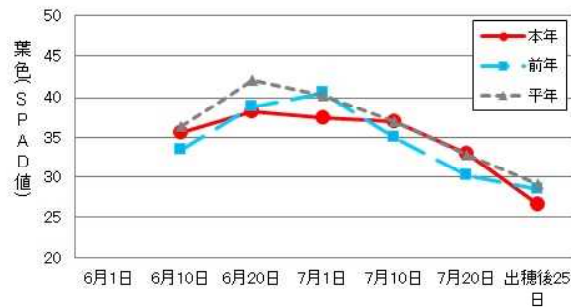


図3 葉色の推移(気仙沼市 ひとめぼれ)

(3) 出穂期

管内の出穂始期は、平年より1日早い8月1日、出穂盛期は平年より2日早い8月4日となりました。出穂盛期以降は、低温傾向となり、穂揃期は、平年並の8月11日となりました(表3)。

表3 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂盛期	穂揃期
平成30年	8月1日	8月4日	8月11日
前年	8月2日	8月7日	8月15日
平年	8月2日	8月6日	8月11日
前年差(日)	-1	-3	-4
平年差(日)	-1	-2	0

注1) 出穂始期、出穂盛期、穂揃期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%が出穂した日

注2) 平年値は平成25年から平成29年までの5か年の平均値

(4) 成熟期

管内の刈取始期は平年並の9月23日、刈取盛期は、平年より4日遅い10月7日、刈取終期は、平年より3日遅い10月17日となりました(表4)。降雨の影響により、収穫作業が遅れました。

表4 管内の刈取状況

	刈取始期	刈取盛期	刈取終期
平成30年	9月23日	10月7日	10月17日
前年	9月25日	10月6日	10月18日
平年	9月23日	10月3日	10月14日
前年差	-2	1	-1
平年差	0	4	3

注1) 刈取始期、刈取盛期、刈取終期はそれぞれ水稲作付見込面積のうち5%、50%、95%で刈取が終了した日

注2) 平年値は平成25年から平成29年までの5か年の平均値

3 生育調査ほの収量調査結果

生育調査ほの収量調査（本吉ひとめぼれ）では、6月中旬の低温の影響により、穂数が平年より少なく、㎡当たり籾数が平年を下回りました。㎡当たりの籾数は平年の9割となりましたが、千粒重、登熟歩合は平年を上回ったことから、収量は概ね平年並となりました（表5）。

県全体の傾向として、6月中旬及び出穂後の低温・日照不足のほか、穂揃期の葉色が平年よりも低く推移し、稲体の栄養状態が悪く、光合成産物が十分に転流されなかった可能性が考えられます。

表5 生育調査ほ収量調査結果

品 種 地 区 (田植日)	出穂期	穂数 (本/㎡)	1穂 籾数 (粒)	㎡当 籾数 (百粒)	1.7mm			1.9mm		
					千粒重 (g)	登熟歩 合(%)	精玄米 重(g/a)	千粒重 (g)	精玄米 重(g/a)	
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町) (5月16日)	平成30年	8/2	403	61.4	248	22.9	95.9	54.4	23.1	52.6
	前年	8/8	462	54.9	254	23.6	92.2	55.1	23.9	53.6
	平年	8/6	476	57.2	271	22.5	90.8	54.8	22.7	53.2
	前年比(差)	-6	87%	112%	98%	97%	104%	99%	97%	98%
	平年比(差)	-4	85%	107%	91%	102%	106%	99%	102%	99%
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川) (5月18日)	平成30年	8/2	439	47.0	206	22.3	90.9	41.8	22.5	41.0
だて正夢 気仙沼市 (5月16日)	平成30年	8/6	329	72.8	240	21.9	85.1	44.7	22.2	42.8
	前年	8/5	389	84.7	265	-	-	-	21.9	44.2
	前年比(差)	+1	85%	86%	91%				101%	97%

注1) 平年値は平成25年から平成29年までの5か年の平均値

注2) 志津川ひとめぼれは本年から調査のため、平年値・前年値はなし

表6 生育調査ほ品質調査結果

品 種	地 区	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒(%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
ひとめぼれ	気仙沼市(本吉町)	78.1	0.2	9.4	0.1	10.0	0.0	1.9	0.3
ひとめぼれ	南三陸町(志津川)	76.1	0.1	10.6	0.0	10.1	0.0	2.7	0.3
だて正夢	気仙沼市(本吉町)	47.6注2	0.0	32.7	0.3	12.6	0.0	0.1	6.9

注1) 古川農業試験場調査 サタケ社穀粒判別器 RGQI10Aによる測定

注2) みなし整粒比（整粒＋乳白粒＋その他未熟粒）は 92.8

5 作況と品質

(1) 作況と1等米比率

本県の水稻の10a当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）は、出穂期以降おおむね天候に恵まれ、初期登熟が順調に推移したものの、8月下旬以降の断続的な降雨や日照不足により、平年で535kgとなりました（12月10日公表、東北農政局、表7）。

表7 平成30年産水稻の収穫量と作況指数（平成30年12月10日公表、東北農政局）

区 分	1.70mm篩目		1.85mm篩目			
	10a当たり収量		10a当たり収量		10a当たり 平年収量	作況指数
	本 年	前年差	本 年	前年差		
宮 城	551	16	527	15	520	101
東 部	549	15	527	16	524	101

本県の水稻うるち玄米の1等比率は92.1%となりました（平成30年12月28日公表，表8）。2等以下に格付けされら主な理由は，充実度，心白・腹白及び着色粒（カメムシ類）によるものです。JA南三陸管内においても1等米比率が9割を超え，品質は非常に良好でした。

表8 1等比率（平成30年11月末現在，東北農政局）

1等比率（%）	30年産	29年産	28年産	27年産	26年産
各年同期	92.1	83.5	90.1	82.9	92.6
各年最終		85.5	90.6	84.4	91.8

（2）病害虫の発生（県病害虫防除所）

- ・葉いもち：少 穂いもち：少 ・ばか苗病：多 ・紋枯病：平年並
- ・斑点米カメムシ類：平年並

いもち病の発生は「少」でした。紋枯病は発生量「平年並」でした。管内においては，紋枯病に効果のある箱施用剤の導入により，本田での発生量は少なくなりました。ばか苗病は発生量が「多」となり，管内においても育苗期を中心にばか苗病の発生が見られました。

斑点米カメムシ類は発生量が「平年並」となっており，斑点米の混入は少なくなりました。本年は割れ粃が少なく，側部加害の割合は少なくなりました。

なお，病害虫の発生状況の詳細については県病害虫防除所ホームページをごらんください。（URL：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>）

（3）雑草の発生

除草剤の効果が切れた頃に発生または再生した，ノビエ，シズイ，コウキヤガラ，オモダカ等の残草が散見されました。難防除雑草のコウキヤガラが多発または新たに発生しているほ場が見られています。

6 次年度の作付けへ向けて

・ほ場の土づくり

近年は，堆肥等の有機物施用が行われず，地力が低下したほ場が多くなっています。地力の低下は，収量の減少，品質・食味の低下につながります。堆肥や土づくり肥料等を施用し，地力の向上に努めましょう。

土づくりの詳細については，「平成30年産気仙沼・南三陸稲作情報第11号」をごらんください。

・ほ場の残草状況に合わせた除草剤の選定

今年，残草が見られたほ場では，初期除草剤と初中期一発剤を組み合わせた「体系除草」を行いましょう。除草剤は発生する雑草の種類によって，効果が異なります。発生または残草した雑草に効果のある除草剤の選定等，不明な点については，当普及センターまでお問い合わせください。